

図書だより

No.138

2021.9.28

兵庫県立神戸商業高校

図書館

新着図書紹介

時間を見つけて読書しよう!

人は本を読んだ分だけ積み上がった高さから世界を見渡せるそうです。視野を広げることは人間性を豊かにしてくれます。ぜひ読書を!

返却期限の過ぎた本を持っていませんか? 早く返しに来てください。



『リボルバー』 原田 マハ【著】

ゴッホは本当にピストル自殺をしたのか? フィンセント・ファン・ゴッホと彼にまつわる物語を、現代に生きるオークションスト・高遠冴の目線で描いたアート・ミステリ。

『ヒトコブラクダ層ぜっと〈上〉〈下〉』

万城目 学【著】

貴金属泥棒で大金を手にした三つ子の前に、ライオンを連れた謎の女が現れたとき、彼らの運命は急転する。アクションあり神話ありでどのページからも目が離せないジェットコースターエンターテインメント!

『彼岸花が咲く島』 李 琴峰【著】

【第165回 芥川賞受賞作!】

記憶を失くした少女が流れ着いたのは、ノロが統治し、男女が違う言葉を学ぶ島だった——。不思議な世界、読む愉楽に満ちた中編小説。

『ブレイクニュース』 薬丸 岳【著】

デジタル社会の現代へ警鐘を鳴らす、SNS時代の新たな社会派小説。

『自分らしさ』と日本語』 中村 桃子【著】

なぜ小中学生女子は「わたし」ではなく「うち」と言うのか? ことばと社会とわたしたちの一筋縄ではいかない関係をひもとく。

『「論語」—孔子の言葉はいかにつくられたか』

渡邊 義浩【著】

孔子の言葉は一日にして成らず。春秋時代の弟子たちが残した師の言行は、口承で、あるいは竹簡や木簡によって紀元後に伝えられた。

『ウー・ウェンの100gで作る北京小麦粉料理』

ウー ウェン【著】

作りやすくて、おいしく食べきれる100gレシピ
小麦粉100gは、餃子なら20個分、肉まんなら4個分。作りたいときにいつでも作れて、お腹にも丁度いい分量。

『ライブ! 現代社会〈2021〉』

池上 彰【監修】

大迫力の最新写真による「ライブ感」・「日本・世界のニュース」および各ページの導入資料は、最新情勢を踏まえた内容。



『琥珀の夏』

辻村深月【著】

かつてカルトと批判された〈ミライの学校〉の敷地から発見された子どもの白骨死体。過去と現在が交錯しながら進む物語は圧巻のラストシーンへ。

『勉強する気はなぜ起こらないのか』

外山美樹【著】

気持ちがあがらない、誘惑に負けちゃう。お困りなあなたにやる気をコントロールするコツを教えます。目標設定、友人関係、ネガティブ戦略など、どれも効果的！

『I LOVE 東京ディズニーリゾート』

ディズニーファン編集部【著】

ディズニーガールズのための、「2パークガイド」と、情報満載の「ディズニーマガジン」がひとつになった、最強ガイド。

【その他の新着図書】

黒牢城	米澤 穂信	文学
テスカトリポカ	佐藤 究	文学
星落ちて、なお	澤田 瞳子	文学
貝に続く場所にて	石沢 麻依	文学
本心	平野 啓一郎	文学
オーリエラントの魔道師たち	乾石 智子	文学
臨床真理	柚月 裕子	文学
20歳(はたち)のソウル	中井由梨子	文学
夏のレプリカ	森 博嗣	文学
今はもうない	森 博嗣	文学
数奇にして模型	森 博嗣	文学
有限と微小のパン	森 博嗣	文学
Another—エピソードS	綾辻 行人	文学
ゴーストハント〈4〉死霊遊戯	小野 不由美	文学
薫風のカノン—航空自衛隊航空中央音楽隊ノート〈3〉	福田 和代	文学
16歳からの相対性理論—アインシュタインに挑む夏休み	佐宮 圭【著】 /松浦 壮【監修】	文学
死刑廃止を考える（新版）	菊田 幸一	法律
問う方法・考える方法：「探究型の学習」のために	河野哲也	教育
公務員採用試験面接試験攻略法	鈴木 俊士	行政
診療放射線技師の一日	WILLLこども知育研究所	医学
ぜんぶん間違っやれ	ジャレット・コベック	音楽
統計でウソをつく法：数式を使わない統計学入門	ダレル・ハフ	統計
とんでもなく役に立つ数学	西成活裕	数学
超面白くて眠れなくなる数学	桜井進	数学

超・面白くて眠れなくなる数学	桜井進	数学
マンガでわかる統計学入門	滝川好夫	数学
初学者のための経営学概論	前田卓雄ほか	経済
世界一やさしい株の教科書 1年生：再入門にも最適!	ジョンシュウギョウ	経済
キャライラストを上手く描くためのノウハウ図鑑	サイドランチ	美術
森の命の素晴らしさ	増井 玲奈	絵本
森のかけはし	林 美羽	絵本
俺の妹がこんなに可愛いわけがない〈17〉	伏見つかさ	文学
Re：ゼロから始める異世界生活〈16~20〉	長月 達平	文学
夏目友人帳 〈第1~10巻〉	緑川ゆき	コミックス
妖怪アパートの幽雅な日常 23	香月日輪	コミックス

▣ぶらり選書 2学年 青木先生

タイトル 『推し、燃ゆ』 河出書房新社
著 者 宇佐美りん

自分にとっての背骨。それが主人公にとっては「推し」だという。「推すことはあたしの生きる手立て」「推しのいない人生は余生」とまで言えるような存在は、私にはいない。「尊い」とか「沼」という感覚も、あまり理解できず、そんな存在に出会っている人たちをうらやましく思ったりする。

『推し、燃ゆ』はタイトル通り、主人公の「推し」が炎上するところから始まる。主人公のあかりは、家庭でも学校でも生きづらさを抱えているが、「推し活」が彼女を支えている。学校生活や家族とのやりとりにおける息苦しさの描写が生々しく、「推し」に彼女がどれだけ救われているかがよく分かる。「推し」に対してどのような思いで、どんな行動をするのか、「推し」がいる人は共感できるだろう。

高校時代、大人になれば精神的に余裕ができるものだと思っていたが、今でもささいなことで悩み、自分がイヤになることもしょっちゅうだ。だけどそんな時でも、「煌めきを探せよ」と歌う声を聴くと、自分の人生にも光る何かはまだあるのだという気持ちになる。主人公が救われていたように、自分でも気づかぬうちに、「推し」のおかげで前向きになれているのだ。そしてそれは、私にとっての背骨といえるのかもしれない。

「推し」がいてもいなくても、「自分を支えてくれている誰か」を振り返ることができる一冊になるだろう。